

小谷小学校からの報告

活動団体名： 小谷小学校

活動人数： 17人（教員2名）

取組時間： 総合的な学習の時間

調査内容 1回目：6月14日（水） 下山田 里の家 付近 🏠
2回目：6月26日（月） 上山田 明神橋付近 🌳

1回目の下山田付近での調査、2回目の上山田付近での調査ともに、最初に川の様子を調べ、その後、ざるやバケツを使用して水生生物の採取を行いました。大きめの石を持ち上げ、バケツやざるで受けながら石の裏についた水生生物を採取しました。石をこすったあと水の中やざるの上で目をこらしてみると、小さく動いている生物が見つかり、子どもたちは「いた！」「わぁ～いるいる！」と声をあげながら夢中で採取する様子がかげえました。白く見やすいバットの中に移すと、それぞれの水生生物の形がよくわかり、「かわった形してるな！」「こんな生物がいたんか！」「初めて見た！」と驚き、知らなかった世界が開けた様子でした。後半は、魚とり網を使用して魚の採取を行いました。川岸の草むらや岩陰を足や網でガサガサして採ったり、また、別の児童がそのすぐ下流で網を構え、逃げ出す魚を待ち構えたりしました。採取後は、採れた生物の観察や種類調べを行いました。どの児童も興味津々で意欲的に活動しました。上流と中流では採れる生き物に違いがあり、子どもたちは同じ川でも水のきれいさによって住んでいる生き物が違うことを実感し驚いていました。



調査員の感想

- 川の上流にいけばいくほど水がきれいだとわかりました。
- 地いきの川にはいろいろな生き物がいることがわかりました。
- 中流と上流で住んでいる生き物の種類がちがうことがわかりました。
- 住んでいる地いきの川がきれいな川だとわかり、うれしかったです。

捕まえた生き物たち

【中流】
トビゲラ、ヒラタカゲロウ、ガガンボ、カワニナ、サホコカゲロウ、ヒル、イトミミズ、ヌマエビ、スジエビ、アメリカザリガニ、タニシ、サナエトンボ、オニヤンマ、コオニヤンマ、カワトンボ、コオイムシ、カワムツ、ドジョウ、アブラボテ、ドンコ

【上流】
カワゲラ、トビゲラ、ヒラタカゲロウ、ガガンボ、サワガニ、ウズムシ、カワニナ、サナエカゲロウ、ヨコエビ、オタマジャクシ、オニヤンマのヤゴ、ヤマトトンボのヤゴ、サナエトンボのヤゴ、カワムツ、ドジョウ、ドンコ



調査のまとめ

中流では、指標生物の中でカワニナが一番たくさん採れ、他に見つかった指標生物の数と合わせて、水質階級は「よごれている」という判定結果でした。パックテストのCOD値は「4」でした。上流では、指標生物の中ではサワガニが一番たくさん採れました。他に見つかった指標生物も「I きれい」の指標生物が多く、水質階級は「I きれい」という判定結果でした。パックテストのCOD値は「2」でした。みずすましの調査を通して、同じ川でも水のきれいさによって住んでいる生き物に違いがあり、中流よりも上流の方が水がきれいであるということがわかりました。水の冷たさも上流の方が冷たく、川幅や転がっている石の大きさにも違いが見られました。調査を通して、地域の川にこれほど多くいろいろな種類の生き物が住んでいるということを改めて知ることができ、子どもたちにとって大変有意義な調査となりました。



活動の様子



【中流（下山田）パックテスト】



【中流（下山田）魚採り】



【中流（下山田）水生生物採取①】



【中流（下山田）水生生物採取②】



【上流（上山田）水生生物採取①】



【上流（上山田）水生生物採取②】



【上流（上山田）魚採り】



【観察】

